

提言内容	提言に対する回答(取り組みなど)
<b>1.安心して子どもを育てる</b>	
「子育て支援」	
1 ・子どもの相談窓口や子育て支援事業のことを知らない人が多いのでPRを積極的にしてほしい。	・子育て支援施策をまとめた「ひとねるサポート」を発刊し、子育て世帯へ配布及び広報えなで特集をしました。今後もホームページや広報えなで特集するなど情報提供に努めます。
2 ・出生率低下の対策として、市役所内に子育て中の女性職員を配置した対策チームをつくり、同世代の女性が定期的に各町の若者の意見を聴きに行くようにしてほしい。	・子育て支援施策をまとめた「ひとねるサポート」の作成に際し、子育て中の女性職員から意見を聴き、情報発信すべき施策の提案を受けました。また、意見徴収の方法も検討しながら、現状や課題の把握に努めます。
3 ・病児保育所の定員は3名であるが、インフルエンザやノロウィルスがはやる時期に対応ができるのか。	・市の人口規模（子どもの人数）、先進自治体の実績等を調査研究し、定員3名としました。今後の利用状況をみながら適正な定員確保に努めます。
4 ・シングルマザーの子育て支援（特に教育面）が必要。	・児童扶養手当受給者に対し、給食費や学用品費などの費用の一部を援助する制度があります。また、中学生を対象に「学習支援講座」を開設し、学習の補充・充実ができるようにしています。
「放課後児童対策」	
5 ・学童保育は各地域にあるとよい。東野にはない。	・放課後児童クラブ（＝学童保育）未設置の2校区（東野小・飯地小）については、平成30年度に設置する予定です。
6 ・警報が出た際に学童保育が安全に子どもを預かってもらえて、子育てがしやすいようにしてほしい。	・警報やインフルエンザ等の閉校時における放課後児童クラブの対応については、市内統一基準の検討を進めています。閉校等を行わざるを得ない真の目的を鑑みつつ、学校等と協議しながら相応しい対応を取りたいと考えています。
7 ・働く親が安心して子育てするために、子育て支援課と教育委員会が連携して学童保育を充実させてほしい。	・放課後児童クラブの設置・運営について、関係課が連携して進めています。また、「放課後の子どものありかた」について検討します。
「妊娠出産支援」	
8 ・不妊症で悩む人が多い中、助成金制度はとてもありがたいと思うが、もっと若い段階（学生）で教育をしていくべきだと思う。結婚適齢期や身体の仕組みなど知ることで晩婚化を少しでも食い止める必要があると思う。	・身体のしくみ等については、小中学校の保健体育や学級活動の時間に性教育等の学習をしています。
「憩いの場」	
9 ・子どもが安全に遊べる公園がほしい。また、噴水など子どもと遊べる水場がほしい。	・子どもが遊べる遊具設置のご意見は多いので、公園整備については公園の規模、配置を含め検討します。
10 ・キッズスペースが有り、ママ友が集まれるカフェや雨の日に遊べる土日営業している施設があると良い。	・こども元気プラザ及び児童センター（大井・中野）は土曜日にも開館しており、お子さんと一緒に室内で遊ぶことができます。こども元気プラザでは、持参した昼食を食べることができます。ぜひ、ご利用ください。
11 ・子どもが遊ぶための公園を地元の元気な高齢者に管理してもらうなど、お金をかけずに公園を維持する仕組みが必要。	・遊具やトイレなどの維持管理の方法など管理費の縮減を含めて検討します。
「こども園など」	
12 ・入園式がある4月以外に1歳になった場合の途中入園ががほぼ不可能。共働きが多い中、母親が会社を辞めなければいけない人もいる。	・市街地のこども園において、3歳未満児の途中入園が困難な状況となっています。現在、おさしま二葉こども園を建設し、3歳未満児の受け入れも拡充する計画です。また、事業所内保育所の設置についての情報提供などを行っています。
13 ・自然を生かすよう「森の幼稚園」を民間主導、行政サポートで行えるとよい	・現在、岐阜県林政部が「木育」の観点から「森の幼稚園」の取り組みに対して情報発信を行っており、その動向を注視しています。
14 ・子どもの検診の際の保健師さんの指導とこども園で出されるおやつに差があり困っている。いつもではないが1歳児にもケーキやアイスクリーム等が出る。小さい頃の食べる物は特に大事だと思うので市として食育の推進をしてほしい。	・こども園では、栄養士が年齢にあった栄養摂取ができるように献立を作成しています。ご指摘のケーキなどはクリスマス会などの行事に合せ提供する場合がありますので、ご理解いただきたいと思います。
「医療費助成」	
15 ・市内の高校に通う高校生を対象に「学生福祉医療費受給者証」を提示をすれば、医療費の助成（無料又は1割負担程度）が受けられると良い。	・子ども福祉医療費助成制度では、市独自で対象を15歳まで延長して医療費を助成しています。現行制度の維持を基本として考えていますので、理解いただきたいと思います。

提言内容	提言に対する回答(取り組みなど)
<b>2.安心して働ける</b>	
「職場環境」	
16 ・働く場所があれば生活していけるので、雇用、働く場所の施策に力を入れてほしい。	・雇用については商工会議所、商工会、市内高校などと連携して「恵那市雇用対策協議会」を設置し合同企業説明会や面接会などの事業に取り組んでいます。また、市内企業の経営力強化に向けた相談窓口（恵那くらしビジネスサポートセンター）を設置し、地域経済の活性化に取り組んでいます。
17 ・女性の生き方の選択肢が増える中で、魅力的な仕事や環境が必要である。	・仕事と家庭の両立など事業所の取り組みで認定される「岐阜県ワークライフバランス推進企業」などの制度を活用し、事業所としての魅力発信への支援を行います。また、新しい働き方の提案としてお試しサテライトオフィス事業を実施しています。
18 ・子育てしながら働ける企業を増やす。フルタイムもパートタイムも選べて、フルタイムは女性が仕事と子育てと両立できる環境を会社が整えることが必要。	・働き方については、各事業所が定める就業規則等によりますが、働きやすい職場が増えるよう国や県と協力し、働き方改革の推進に努めます。
19 ・フレキシブルな働き方ができる企業を増やす。（介護職、保育職の人手不足や早期離職対策にもなる）	
「企業誘致」	
20 ・企業誘致など外から人を誘致してくる施策が必要である。	・工業系では工業団地の造成を行っています。また、IT企業など働く場所にとられない事業向けのお試しサテライトオフィス事業を実施しています。また、本社機能の誘致を研究しています。
21 22 ・人を引き抜かれるので企業誘致はもういらないと聞く。 ・労働者の人手不足が深刻で、工業団地を作れば人は増えるが、同時に労働者が条件のいいところに移動してしまうということもあるので、そのあたりの課題も考えてほしい。	・新たな企業の誘致のみでなく、既存企業の活性化対策も必要だと考え、経営力強化に向けた相談窓口「恵那くらしビジネスサポートセンター」を設置し、事業者とともに基盤強化に取り組めます。また、企業の採用担当者向けのセミナーを開催するなど企業ごとの働きやすい職場づくりへの支援を行います。
23 ・工業団地などの開発をするときに地元が受け入れるという意識の改革をしてほしい。	・工業団地開発は近隣の協力がなければ操業後のトラブルなど地域の課題になってしまう事もあり得るため、地域の意見を聞きながら進めていきます。
「I・Uターン」	
24 ・Iターン、Uターン就職を増やすため、高校生や親、大学生に向けて地元企業のPRができるよう、企業の出荷額など具体的な数字を用いてアピールするとよい。	・地元企業のPRについては、企業情報誌を作成して高校生や近隣大学へ配布しています。同様のweb版もありますが、まだPR不足なのは事実です。今後、様々な場面で地元企業のPRをしていきます。
25 ・高校のインターンシップだけでなく、企業が大学入学前から支援などで関わりをもち、大学卒業後に恵那市の企業に戻ってこられるようにする。	・企業も人材確保に向け、様々な手段で努力を進めています。市では大学入学前に市内事業所を知ってもらうため、高校での職業講話や企業見学ツアーなどで啓発を行っています。
26 27 ・恵那の魅力を学生や地元の人に学んでもらい働いてもらうことが大切である。 ・専門的な「はたらく」を学ぶ場や「お金を稼せぐこと」を学ぶ場へのインターンシップを行う。	・市内事業所では、学生向けのインターンシップのほか、学生以外の方が職場を体験するインターンシップ制度を設けている事業所もあります。就職前の体験は職場を選択する参考にもなるため、この制度を採用する事業所が増えるよう支援します。また、人材確保に向けて事業所の魅力を効果的に発信する事業を進めます。
「就労支援」	
28 ・様々な状況や事情により、すぐに働く事が難しい人のために中間的就労支援の充実が必要である。	・恵那くらしビジネスサポートセンターではハローワークと連携し、求人情報の提供や就活セミナーなどを実施しています。
29 ・高齢化に伴い、高齢者が働くことを通じて生きがいをもてる地域社会を作っていければ良いと思う。	・シニアワークステーションを開設し、高齢者雇用の推進と高齢者が地域で活躍できる環境を整備し、高齢者のいきがいとなる働く場を創出します。
30 ・人手不足の解消のために転入して市内企業に就職した人に助成金や減税をすればアピールになる。	・現在、移住定住推進施策として宅地購入費の助成、住宅取得費の助成、新婚おめで10事業等を行い、転入者の支援を行っています。
31 ・東京などでもリニアを使って通勤できるので、恵那市に住んでもらうために通勤費の補助をしてはどうか。	・リニアインパクトを活用し、恵那市の魅力を発信していかなければならないと考えます。今後の施策立案の参考にさせていただきます。

提言内容	提言に対する回答(取り組みなど)
<b>3.健康を維持増進する</b>	
「予防医療」	
32 • ノルディックウォーキングやマレットゴルフなどを利用して予防医療をしてはどうか。	• ウォーキング大会や健幸フェスタ開催時にノルディックウォーキング教室の実施を企画しています。今後も運動のためのきっかけづくりを企画していきます。
33 • 予防医療のための予算の充実が必要である。	• 若い人の健康診査・各種がん検診の機会を設け、疾病の早期発見早期治療に努めています。又、生活習慣病予防への取組を進めます。
「医療費」	
34 • 広報で医療費についての特集を継続して市民に意識付けしてほしい。	• 国民健康保険及び後期高齢者医療に加入する方々の医療費については個別に通知を送付して定期的にお知らせしています。今後は、医療費から見る恵那市の疾病の傾向や、その治療に伴う医療費など、広報等で分かりやすく周知できるよう検討します。
35 • 特定検診の受診率をもっと上げるように広報して、医療費の削減をするべき。	• 特定健診については、広報えなを始めとした様々な広報媒体を利用して幅広く周知します。また、本年度、生命保険会社と連携協定を結び、特定健診等の受診率向上に向けた取組をしています。
36 • 夕張市の事例として、市民が「自分たちで何とかする」という意識があれば医療費は減ると思う。	• 保健事業を通して健康の意識付けを幅広く周知し、保健師等による保健指導や栄養指導などの個別指導をすることで治療や改善に向けた取組を行っています。
<b>4.日々の暮らしを守る</b>	
「介護予防・高齢者福祉」	
37 • まだ元気だけでも介護保険の度数に入ってくる人は、「いきいき教室」を使うことで介護保険を使わなくて済むのではないか。	• 平成28年度から介護予防・日常生活総合事業の実施に伴い、介護認定の申請をする前に、地域包括支援センターが調査を行うことにより、対象者の方は「いきいき教室」を利用できるようになりました。
38 • 独居高齢者の通院介助（病院内の付き添いやケアマネへの連絡など）や介護保険制度外サービスの充実が必要である。	• 院内の付き添いは基本的には病院スタッフですが、民間のサービス利用も可能です。制度外サービスについては、高齢者の方が住み慣れた地域で暮らすためには必須と考えますので、現在地域の代表者等を含めた会議にて意見交換など行なっています。
39 • 市内に医療介護が必要な国民年金生活者でも入居できる施設を考えてほしい。	• 介護保険制度で利用できる施設サービスは、市民等からの意向調査を参考にしながら、3年毎に見直す計画の中で必要に応じて施設整備などを行っています。
「高齢者の活躍の場」	
40 • シルバー人材センターへの登録を勧めて人手不足を解消すべきであり登録をしやすいように援助があるとよい。	• 豊かな経験や知識、技能を持った高齢者が、生きがいをもって働く環境を整えるため、シルバー人材センターの体制を強化し会員登録を推進するよう支援を行っています。また、啓発用パンフレット、チラシ等の配布、会報誌の全戸配布、ホームページの充実やケーブルテレビのアミックスコムを活用など、PRに努めています。
41 • シルバー人材センターの登録・利用方法などを周知し利用を拡大する。	
42 • シニアの活躍できる場所や仕事、催しをもっと見える化して大々的にPRし生きがい等を創出できないか。	• シニアワークステーションを開設し、高齢者が生きがいを持って活躍できるよう、関係機関と連携を図りながら進めます。また、高齢者に関する情報を一元的に管理し、情報発信できないか検討します。
43 • 高齢者が得意なことを活かして活躍できる場所を増やす。	
<b>5.医療と救急を充実する</b>	
44 • AEDの配置（間隔）を考えてほしい。地域によっては狭い範囲に数個配置されているところがある。	• AEDについては、24時間利用できるよう公共施設の屋外に設置しています。今後、地域の条件等を考慮して設置箇所を検討します。
45 • 精神科のある病院があると良い。 46 • 24時間365日連絡の取れる往診医療体制が必要である。	• 精神科医師は絶対数が少なく、誘致が困難です。市立恵那病院にあっても同様で、医師の確保が困難です。 • 24時間往診ができる医療機関は市内にも何件かあります。また、24時間電話連絡を受付けている医療機関も多くあります。詳しくは中津川・恵那地域在宅医療連携推進協議会発行の「在宅医療ガイドブック」をご確認ください。
47 • 救急車のタクシー感覚での利用や医療費が無料であることからコンビニ受診が増えている。税金が多くかかっており、財政を圧迫していることをお知らせした方がよい。	• 救急車の適正利用については、リーフレット、広報誌、救急講習会等の啓発により軽症者の搬送が減少しています。 • 急病でもないのに時間外や深夜に受診する「コンビニ受診」については、医療費が無料となる福祉医療費助成制度対象者に対して、受給者証の切り替え時期などに周知しています。

提言内容	提言に対する回答(取り組みなど)
<b>6.犯罪や事故を防ぐ</b>	
48 • 犯罪や事故が起こりにくいまちになるよう街路灯（防犯灯）を増やしてはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市内には、約4,000基の街路灯（防犯灯）があります。これらの設置等は自治会などが担っており、地域の状況に合わせて設置しています。</li> <li>• 市には防犯灯の設置やLEDに更新する場合に、設置費用の一部を助成する防犯灯設置補助金制度がありますのでご利用ください。</li> </ul>
<b>7.災害から身を守る</b>	
「防災対策」	
49 • 災害時の指定緊急避難場所、指定避難場所は三郷町野井で言えば、災害の種類（地震、洪水、がけ崩れ地滑り）によって避難場所が異なる。（すべてをクリアする避難場所がない）また、人口に対して避難場所が不足している。災害を見越した施設、且つ多目的利用が可能な施設の新設が必要だと思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 避難所には4つの設定基準があります。</li> <li>①被災者が避難生活し易い公共の施設である。</li> <li>②建物が耐震耐火構造である（隣接して空き地があることが望ましい）</li> <li>③市以外が管理する施設は、管理者と利用協定等を締結する。</li> <li>④選定の順序は、「1. 公立小中学校」「2. 公民館・集会施設」「3. その他の公立学校」</li> </ul> なお、避難所目的の施設新設は考えていません。
50 • 市内にため池が多くあると思うが、近年、記録的な大雨が降る中で氾濫する可能性があるので防災対策を早急に整えて頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市内のため池については、ため池診断を実施済みであり、今後は診断結果（危険度）に応じた対応を順次とる予定です。</li> </ul>
「消防団活動」	
51 • 消防団活動が多すぎて負担になっている。活動量や内容を見直してほしい。労働能率の低下など仕事への支障がある。家庭では家庭力の低下になっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 消防団活動については、市民の声を団幹部で共有し、部隊訓練の変更など負担の少ない行事計画を実施しています。また、各分団長に対し家族の理解を得ての訓練参加、無理の無い訓練の実施を指示しており、今後も負担軽減に努めます。</li> </ul>
52 • 消防の操法大会の簡素化が必要。特に子育て世代は時間的、金銭的に負担が大きいのに入団する人がいない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 消防団活動に関して、団員個人が支払う金銭が発生することはございませんが、団員同士の飲食に関しては自費で行っていただいております。</li> </ul>
53 • 消防団員を有する企業のメリットがあるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 恵那市では、市内の消防団員を有し申請があった事業所に対して消防団協力事業所と認定し表示証を交付しています。岐阜県の制度で、消防団協力事業所から申請があった場合、法人事業税、個人事業税の優遇処置（期間限定あり）を受けられる制度があります。</li> <li>また、消防団を支える事業所を顕彰するため、県知事による社会貢献事業所表彰があります。</li> </ul>
<b>8.自然を守り活かす</b>	
54 • 間伐など適正な管理を行い災害に強い森をつくる。 55 • 災害による倒木の撤去に対する補助をしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 森林組合などへ5年間の間伐計画を含む森林経営計画を作るための助成及び支援をし、国や県の補助を活用して、災害に強い森林づくりを進めます。</li> </ul>
<b>9.魅力あるまち並みを創る</b>	
「居住環境」	
56 • 月収25万円くらいの方が恵那市に住むためのアパートが無い。車がなくても生活できる場所が無い。 57 • 企業が社宅を用意することの検討はするが、そのお金があれば従業員の給料を良くしたい。従業員が住めるアパートが増えると良い。 58 • 家を建てるにしても土地がないし情報もない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 安価で優良な宅地を供給出来るよう、現在施策を検討しています。賃貸住宅（アパート）の更なる普及も公営住宅とのバランスも考えながら進めます。また、不動産業界との連携を強化しながら有益な情報提供が出来るよう努めます。</li> </ul>
59 • 結婚すると恵那市にアパートがないので、アパートがある瑞浪へ行ってしまう。瑞浪と恵那の違いを比較し、恵那の弱みを克服すれば恵那に住む人が増える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 賃貸住宅（アパート）の更なる普及も公営住宅とのバランスも考えながら進めます。また、他市との比較や他市が行っている施策の成果と効果を確認し、恵那市独自の施策を展開することで、恵那市の弱点を克服出来ればと考えております。</li> </ul>
「景観」	
60 • 本町通り（中山道）の石畳に車のすれ違いの際に乗り入れてしまうので中山道のイメージを崩さない様、道路と歩道を区分けしてほしい。 61 • 中山道などの修景舗装した道路を掘り返した後、その部分だけ通常舗装で継ぎ接ぎになって景観を損ねるので、そういうことも意識して事業を行ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• H29、H30年度で旧中山道の景観舗装を実施します。物理的な歩車道の分離は難しいため、色分けにより車道と歩道を区分します。また、再掘削が生じないように占有者と調整します。</li> </ul>

平成29年度 総合計画推進市民委員会部会などでの提言一覧

提言内容	提言に対する回答(取り組みなど)
「公園」	
62 ・阿木川公園前の川を3ヶ月に1回くらいルアー、フライの釣り公園に解放してはどうか。(恵那漁協の協力してもらって)	・毎年4月の下旬に恵那漁業協同組合主催の釣り大会が実施されています。また、河川区域内公園としての特徴を生かした利用方法について検討します。
<b>10.歴史文化を活かす</b>	
63 ・中山道や美術館などは知っていても関心がないので、そこで何かが行われると関心が持てると思う。また、代表するものがあると自慢できるのではないか。 64 ・祭事などを駅前通りだけでなく中山道の大井宿方面で行い、人を呼べるようにして、知ってもらうことが必要だと思う。	・岐阜県主催の「中山道ぎふ17宿歩き旅」を開催し、様々な体験プログラムを実施しています。また、中山道広重美術館でも、企画展やイベントなどを実施すると共に、毎週金曜日をフリーフライデーとして観覧料が無料となります。
<b>11.戦略的に道路をつくる。</b>	
65 ・朝夕のまきがね公園付近の19号の渋滞が大変なので早期に2車線化をお願いしたい。	・国道19号瑞浪恵那道路のまきがね公園付近を含む武並町竹折から長島町榎ヶ根までの区間については現在事業化に向けて手続きに入っています。また、まきがね公園出入口の信号の時間調整により渋滞が軽減できるよう関係機関と調整します。
<b>12.移動手段を充実する</b>	
66 ・JRの恵那駅までの本数が少ないことは居住地を決めるときのマイナス要因なので、瑞浪止まりは恵那まで来てもらえるような要望をしてほしい。	・JR東海に対して、中津川駅までの運行本数の増加を要望します。
67 ・公共交通の不便さがあるので、公共交通網の充実が必要。車両もバスでは無く、もう少し小さい車両で検討してはどうか。 68 ・高齢化に伴い、病院、スーパーなどへ行く交通の利便性を向上させる取組みを考えてほしい。	・「明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画」に基づき、公共交通ネットワークの改善や再編を行っています。 ・岩村、山岡地区では、地域の方々が立ち上げた検討委員会と共にデマンド交通などを検討しています。
69 ・「いいじ里山バス」や中野方の「おきもり」など外出支援的なものが増えるとよい。	・将来にわたって継続できる地域の実情に応じた交通体系の仕組みを目指します。現在は串原地域において検討しています。
<b>14.暮らしやすさを保つ</b>	
「道路維持管理」	
70 ・生活道路沿いに木や草が繁り危険である。倒木や草刈りなどの予防的処理が必要。	・生活道路の日頃の管理については、地域のご協力が不可欠となります。自治会等が道路沿線の草刈り等を行う活動に対して助成する「みんなのみち愛護事業」の利用によるご協力をお願いします。
71 ・積雪時、通勤時間前に除雪、融雪剤の散布をしてほしい。	・幹線道路、通学路、バス路線など、交通量の多い市道を対象に実施していますが、延長が長く順次の対応となります。 ・生活道路については、凍結防止剤を市役所又は各振興事務所でお渡しいたしますので、引き続き地域のご協力をお願いします。
「駐車場」	
72 ・駅西駐車場で定期駐車を希望したが、定数いっぱいであった。名古屋方面へ通勤・通学する人も増えているのでの増設をしてほしい。	・自動車収容台数190台の中で「定期利用者」と「時間利用者」の利用実績を検証し、利用者の利便性が増すように検討します。
73 ・武並駅に時間貸しの駐車場がほしい。	・現在、民間による月ぎめの駐車場が設置されています。時間貸し駐車場の必要性を含めて、地域とともに検討します。
<b>15.学ぶ力をつける</b>	
74 ・恵那南高校へ通学する人だけでなく市内の高校へ通う生徒に対しても明知鉄道の通学補助を活用すると良い。	・恵那南高校へ進学する生徒の減少傾向を解消するため、平成28年度から恵那南高校へ明知鉄道で通学する生徒に定期券の半額助成を行い、効果を検証しています。現在のところ、恵那南高校生徒以外への定期券補助は検討していません。
75 ・恵那市に専門学校等の教育機関をつくる。	・恵那市への専門学校等の誘致は今後の施策の参考とさせていただきます。
76 ・恵那南高校に特殊な地域色のある科をつくり地元就職につなげる。	・現在、恵那川上屋と南高校と恵那市で3者協定を結び、栗を素材とした6次産業学習を実施し、地域色を打ち出した人材の育成を支援しています。
77 ・子供たちが「恵那の〇〇」と答えられるようになるぐらいの情報発信力があるとよい。	・ICT活用事業の推進、「ふるさと学習読本」の発行や志教育(先人学習)を行い、主体性・情報発信力・郷土愛を育てるための取組を行います。
78 ・教育や人づくりの施策を連動させ、定住に繋げていくことが大切であり、地域のコミュニティスクールと連動させることが重要である。	・学校と地域住民等が力を合わせて取り組むコミュニティ・スクール(学校運営協議会)を平成30年度より全小中学校で立ち上げます。
79 ・恵南地区から瑞浪の中京高校や麗澤瑞浪高校に学生が流出しているのではと不安なところがある。	・各中学校では、進路指導として、市内高校へ通う生徒を講師として招き話を聞くなどの取組をし、各高校では、中学校で高校説明会を開催し、学校のPRをするなどの取組をしています。

平成29年度 総合計画推進市民委員会部会などでの提言一覧

	提言内容	提言に対する回答(取り組みなど)
80	・学林の手入れができていないので、施設の建設時には学林を間伐して建材として活用できるとよい。	・施設の材料として使用するにあたり、使用した場合の建設費用などを精査しながら、有効に活用できる手段を検討します。
81	・保育園、幼稚園、小学校まで全て無償とし、連ドラで恵那市が紹介されるため、その時に併せて子どもに優しいまちとしてPRするとよい。	・こども園・保育園の保育料については、国などの制度に合わせて対応していきます。小・中学校では、給食費・学級費等を徴収していますが現在のところ無償化は考えておりません。なお、経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対し、給食費や学用品費など学校で必要な経費の一部を援助する制度があります。

**18.まちの担い手になる**

82	・若い世代や移住者への空き家情報やリフォーム補助の充実が必要である。	・「恵那くらしビジネスサポートセンター」では、「空き家バンク制度」を活用した情報提供や相談窓口を開設しています。また、空き家改修補助や若者世代を支援する移住定住促進事業を実施しています。
83	・人口は他地区との取り合いになってしまっているため、今住んでいる人を他へ流出させないことを徹底したらどうか。	
84	・移住定住事業で都市部の若者とマッチングする事業をしてはどうか。	・ホームページや各種SNSでの情報発信、民間や県のサイトへの情報提供などに加えて、東京、大阪、名古屋などで年間7回程度セミナーを開催し、情報発信と相談窓口を開設しています。
85	・移住定住施策についてメディアを通じた情報発信が必要であり、NHK「半分、青い」は絶好のPRチャンスなのでこの機会に情報発信に注力することが必要である。	
86	・食や観光で魅力ある恵那をPRし、県外からの移住・定住者を呼び込む。	
87	・地域とのつながりを持ちたいと思っている若い世代に地域とつながる方法を教える。自分が住んでいる所を知ることが地元を考える機会になる。	・地域の地域自治体運営委員会に若い世代の方にも積極的に関わってもらうなど、若い世代が地域とつながる機会を増やし、地域での担い手となれるような仕組みを考えます。
88	・名古屋から1時間で来られる点で恵那市の持っている潜在力は高いので、もう少し、人口減少対策の努力ややり方があるのではないか。	・他市町村の事例なども参考に、みなさんのご意見をお聞きしながら、恵那市にあった事業が展開できるように努めます。
89	・恵那市の女性の大学卒業後のUターン率はどうなっていますか？ 人口減少・出生率を考えると女性のUターン率を減らさない事をしていかなければいけない。	・大学卒業後のUターン率については把握できていませんが、市内高校の卒業生の内、県外の大学等へ進学する方は半数を超えている状況です。若い方にUターンしていただけるよう魅力ある恵那市にするため、みなさんのご意見をお聞きしながら施策・事業を進めます。
90	・いかに人口減少を食い止めるかが全ての地域で最重要だと思う。根本的に何をしたらいいかをもう一度考えないといけない。	・地域の方々と認識の共有を図っていく必要があると考えています。

**19.地域自治力を高める**

「地域活動」

91	・地域自治体運営委員会のイベント予算の全廃止については、イベントの廃止による地域の衰退につながりかねないので一考いただきたい。	・地域のまちづくりは、地域内にいるすべての人が一緒になって進める必要があります。各地域でも残していくべきイベントについて、自立の方法を考えています。
92	・地域活動が負担になっている。	・一人に負担が集中するのではなく、多くの人が地域活動に関わり、役割分担ができるような仕組みなど、地域自治体の会長があつまる会議等で考えていきます。

「ふるさとえな応援寄付金」

93	・ふるさとえな応援寄付金制度にもっと力を入れるべき。恵那市をPRすることにも繋がるので力を入れている他市を参考にしてほしい。	・ふるさと納税本来の趣旨に沿って、恵那市を応援して下さるファンづくりを目指し、新たな制度を創出します。
----	--	---

**21.産業を育成支援する**

「耕作放棄地」

94	・耕作放棄地を農振除外して宅地化することを官民で行ってはどうか。	・地域の移住定住対策の一環として「住むとこ探すプロジェクト」を実施し、地域と民間と市で一体となって検討します。
95	・耕作放棄地を活用していくには担い手をどのように増やしていくかが重要である。	・次世代の担い手育成支援や農業で所得に繋がる仕組みづくりなどを「もうかる農業プロジェクト検討委員会」にて検討します。
96	・耕作放棄地の労働力は主に60歳代だが、低賃金やボランティアであり負担が大きい。	
97	・耕作放棄地を耕作することの魅力（儲かる）をアピールしないとイケない。	
98	・農地の規制を変えて、小規模農地の売買ができるとよい。	・恵那市では、耕作の目的で農地を取得する場合、農業委員会が定める下限面積30aを満たす必要があります。しかし、小規模な農地で農業を営みたいニーズに応えるため、平成30年度より特例で空き家に付随する遊休農地等を空き家とセットで取得できる制度を創出しました。

平成29年度 総合計画推進市民委員会部会などでの提言一覧

	提言内容	提言に対する回答(取り組みなど)
「農業担い手」		
99 100	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業をやりたい若者は多いのでうまくつなげれないか。</li> <li>行政も新規就農者サポート事業みたいなものをやるといい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業に関わる様々な段階に応じた支援メニューがありますが、それらの情報が周知不足であるため、新たに農業に関する総合ポータルサイトを構築し、情報発信をしていくなかで若い世代を中心に新規就農者の確保に努めます。</li> </ul>
101	<ul style="list-style-type: none"> <li>恵那農業高校の卒業生を中心とした会社づくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、恵那農業高校と協定を結び、耕作放棄地の解消と6次産業化に向けた取り組みをしています。今後も地域資源の有効活用や人材育成の観点からも連携して取り組むことで、起業・創業に繋がればと期待します。</li> </ul>
102	<ul style="list-style-type: none"> <li>流通販路を拡大したり、新規就農者がやっていける条件を支援するメニューを作り上げれば、第2、第3の新規就農者を作っていける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者に対し、生活面での所得を援助する制度を活用し、過去5年間で若い世代の新規就農者が10人増加しています。国の制度を有効活用しつつ、新規就農を希望する方が増えるような条件整備を検討します。</li> </ul>
「起業支援」		
103 104 105 106	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスサポートセンターを活用して、プチ創業の支援をしてほしい。</li> <li>起業の相談窓口をつくる。</li> <li>ママが起業しやすくなるようなスペースを確保する。</li> <li>大井、長島、岩村など人の集まるエリアにチャレンジできる場所（施設）を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「恵那くらしビジネスサポートセンター」にて、起業への支援をしています。また「恵那まちなか市」で出店体験ブースを設けて実施しました。今後も様々な取り組みを検討します。</li> </ul>
「情報発信・PR」		
107 108	<ul style="list-style-type: none"> <li>モノが良ければ人は来る。安売りせず、相応の価値を持たせて、それをどのように情報発信していくかが大切である。</li> <li>地元の人だけが販売対象では厳しいので、もっと市外に向けて情報発信できる仕組みが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な情報発信ツールがあるため、情報の受信者側を意識した情報発信に努めます。</li> </ul>
109	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の体験学習を通して、地域の事を知り、発信できる仕組みが出来るといい。例えば、市内各小学校0年生を『恵那市の魅力大使』として任命し、体験学習を通して学んだ事を学校でプレゼンしてもらう。その内容をHP等で発信することで恵那市のPRにつながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校では、ふるさと教育や志教育（先人学習）などを行い郷土愛を育てる取組をしています。学んだことを観光大使となってPRしてもらうことは大変良いことなので、今後検討していきます。</li> </ul>
「広域連携など」		
110	<ul style="list-style-type: none"> <li>中津川市、瑞浪市と協力して「はたらく」を活性化させることはできないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在は中津川市や南木曾町の企業を含めた合同就職面接会を開催しています。今後、瑞浪市との連携も検討します。</li> </ul>
111 112 113 114	<ul style="list-style-type: none"> <li>「恵那らしい」ではなく、「恵那で作ったもの」を売る。</li> <li>恵那の人で勝負「生産者」「恵那」でブランド化。</li> <li>ブランド化の説明ができれば高価でも受け入れられる。</li> <li>地元以外の人買って初めてブランド化される。ブランド化をどう周知するかが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブランドづくりでは、そこにある物語（ストーリー）が重要で、それは「人」であったり、「モノ」であったり様々です。これまでの歴史や風土をうまく活用したブランドづくりを大切にします。</li> </ul>
115	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市部のアンテナショップなど恵那産の農産物の直売所ができるとうい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずは市内での地域産農産物の流通を強化したいと考えているため、市内で核となる販売所の設置等、地産地消の観点からも地域内で流通する仕組みを考えます。</li> </ul>
116	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産グループの加工所や、ジビエの加工所が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>付加価値を付け販売することは所得向上にとっては非常に重要なことだと認識しています。当市にも6次産業化を推進する支援メニューがあり、昨年度、中野方町にジビエの加工施設が新設されました。</li> </ul>

提言内容	提言に対する回答(取り組みなど)
<b>22.交流と連携で元気になる</b>	
「観光誘客」	
117 • 国際線の強化が進む羽田空港からリニア開通により50分程度で行き来が出来るようになり、年間の訪日外国人客数も1千万人規模での増加が見込まれる中で、外国人観光客の誘致が重要である。 118 • リニア中央新幹線開業を生じ、外国人や修学旅行生などの誘致が、今後交流人口や定住者の増加に繋がる。 119 • 外国人観光客に観光地等を外国語で案内できなければ、その面白さや価値を十分に味わうことができないので、そうしたサービスを付加し、観光の魅力をより簡単に深く楽しめるようにすることが必要。	• 外国語での観光案内ができる人材が不足しているのが現状です。スマートフォンを利用して外国語の音声案内などが行えるなど、ガイド育成と共に検討します。 • リニア中央新幹線の開業により交流人口の増加が見込まれるため、今後も外国人向けの多国語パンフレットなどの制作を行い、恵那市の魅力を発信し交流人口の増加を図ります。
120 • 恵那市でしか体験できない付加価値を付けた体験型の観光を売りに他市他県にはない観光客誘致が出来ないか。 121 • 体験型の観光は修学旅行生誘致にも生かすことが出来る。	• 体験型の観光は誘客に結びつくものであると考えていますが、恵那市では体験型観光が少ない状況であります。恵那市独自の体験を見だし、磨き上げて集客に結びつけることが課題と考えています。
122 • 外国人観光客誘致では、到着駅から観光地等までの容易なアクセスが必要で有り、中津川市と連携し道路、交通網の整備、駅からのシャトルバス運行等が欠かせない。	• 交通網の整備は欠かせない課題であると考えています。バス業者やタクシー業者とも連携しながら検討します。また、道路整備においては、恵那駅と中津川駅を結ぶ都市間連絡道路の事業推進を中津川市と連携し進めます。
「情報発信PR」	
123 • まずは全市民が恵那市の観光・特産品について説明できるような環境づくりが必要。『市民観光案内ブック(情報本)』などがあるといい。	• 恵那市観光案内パンフレットやマップを作成して、恵那市の観光地や特産品をPRしています。今後もわかりやすい観光情報を提供できるように努めます。
「観光資源・魅力」	
124 • 中津川市川上にある「恵那神社」には天照大神の「へその緒」がお祀りしてある。日本の真ん中である東濃に体の中心にある「へその緒」が祀られ、祀られている神社が「恵那神社」これを活用し、中津川市と協力し観光周遊ルートを考えられないか。	• 中津川市とは「ひがしみの観光推進協議会」を立ち上げて広域での観光を行っていくこととしています。中津川市との周遊ルートとしてご提案いただいたことは、検討したいと思えます。
125 • アウトドアレジャーを拡大する。(カヌー、ボルダリング、ツリークライミングなど)	• スポーツツーリズムという視点からも、恵那峡のカヌー教室やウォーキング、東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地の誘致を進めている笠置峡のボート、カヌー、笠置山のボルダリングなどの充実や拡大を図ります。
126 • 恵那市は観光資源に恵まれた所だともっとPRするとよい。特に岩村の夜の町並が素敵なのに今ひとつ有効活用されていないと感じる。泊まって楽しい町になるともっと人が来てくれると思う。	• 岩村城下町の街路灯は、町並みの景観に配慮して設置しています。宿泊者の皆さんに雰囲気の良い町並みをPRしていきます。
127 • 宿泊施設を充実させる。	• リニア中央新幹線の開通により、東京からも日帰り観光に来られる範囲となるため、宿泊施設の充実は重要な課題としてとらえています。現在岩村地域ではゲストハウスが増えて、外国人の宿泊客に大変好評です。 • 住宅宿泊事業法の施行に伴い、個人の住宅などでも宿泊できるようになるため、民泊事業についての調査研究をします。
128 • 岩村、恵那峡にボンネットバスを復活させ、リニアの未来性とボンネットバスのノスタルジックなコラボで観光に繋げられないか	• 恵那市観光協会が実施する旅行事業においてボンネットバスを用いていましたが、老朽化に伴い中型バスに更新されました。次回、更新の際に検討します。
129 • 明知鉄道SLの復活に向けてあらゆる方法を具体的に、もっと開かれた状態に取り組むとよい。莫大な予算がかかることは承知であるが、話題性、活性化、雇用、観光など新しい展開が創造でき、全国的に恵那市を発信できると思う。	• SL復元の活動につきましては、現在、明智駅構内でSL乗車体験を行い、全国から体験乗車にいられています。SLファンクラブでは、WEBサイトを開設し広く皆さんに周知しています。小さなお子さんにも乗っていただき、楽しくSLに触れていただきながら、SLの復元をPRしています。
130 • マルシェの経済効果は大きい。 131 • 「食」と「施設」の魅力を融合させ、相乗効果により集客数の増加につなげる。 132 • 「栗」は売れる。汎用性がある。 133 • 五平バーガーなど地域ごとにタレが異なるバリエーションをつくり、ストーリー性を持たせてはどうか。	• 食と観光の関係は切っても切れないものであるため、恵那市の魅力ある食べ物を積極的にPRしていきます。
134 • 明知鉄道の車両のデザインが、のどかな景観に合わず、観光地として見るととてももったいない。広告車両をやめることはできないでしょうか。	• 鉄道車両の広告は、運賃以外の収入確保の観点から明知鉄道の経営を支える上で必要なことから、各企業に協力していただいているものですので掲載につきましてはご理解願います。
135 • リニア岐阜県駅周辺に商業施設をつくる。	• リニア岐阜県駅は中津川市に整備され、駅周辺では区画整理事業が行われる予定です。駅周辺の商業施設について恵那市が検討することは難しいため岐阜県の取組みを紹介します。 • リニア岐阜県駅周辺整備について、岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会、基盤整備部会の「リニア岐阜県駅周辺整備協議会」で検討されており、駅周辺の施設整備計画の中には、地元の特産品や工芸品などを販売する「にぎわい創出施設」などがあります。



提言内容	提言に対する回答(取り組みなど)
<b>23.持続可能型の社会をつくる</b>	
136 ・太陽光発電設置費用も安くなってきているので、市の補助金の見直しをした方がよい。 137 ・太陽光発電設備のパネルなどが老朽化によって大量の廃棄物になることが予想されるため、今後不法投棄等の対策を考えておく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅用太陽光発電設備に係る補助金は平成29年度をもって廃止します。</li> <li>・太陽光発電設備は「産業廃棄物」としての取り扱いとなります。今後、リユース・リサイクル・適正処分に関する課題及び対応方法の明確化を図る事が重要であり、引き続き環境省の情報に注意します。</li> </ul>
138 ・地域で消費するものを地域で作って売ることが重要。エネルギーの地域内循環で「薪ボイラー」を導入し、持続可能な自然エネルギーを活用することで林業の活性化につながる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国各地に木質バイオマス施設が出来てきたため、以前と比べチップ業者の買い取り価格も高くなっています。地域内循環も考慮し、林業の活性化について検討します。</li> </ul>
<b>24.市民サービスが向上する</b>	
「広報」	
139 ・広報に載っている情報をメール配信してほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メール配信サービスによる情報提供の拡充を進めます。同時に、より多くの市民の皆さんにサービスを利用いただけるよう利用者増加に向けた啓発も行います。</li> </ul>
140 ・広報えなの編集スタイルをもっと今風に、もっと面白く、もっとカッコよくできないか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度から広報えなの発行を月1回に集約することに併せ、紙面デザインを一新し、新たな企画コーナーを含めた紙面づくりを行います。市民の皆さんに親しんでいただける紙面づくりを目指し、編集に取り組みます。</li> </ul>
141 ・より多くの人に恵那市を知ってもらうために「ツイッター」や「インスタグラム」などSNSを活用して市内、市外へもっと発信できると良い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、一部の施設などでSNSによる情報発信を行っていますが、市公式のSNSを開設し、効果的に情報発信できるよう検討しています。発信する情報の種類や運用面での整備を十分考えた上で、導入を判断したいと考えています。</li> </ul>
「その他」	
142 ・市議会議員の活動が解らない。選挙の時だけ頼むだけ頼み、恵那市のために活動されているのか疑問を感じる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議員は定例会が年4回あり約1ヶ月間、市から提案される議案や条例、予算等について審議します。定例会以外にも常任委員会、特別委員会、全員協議会、担当する行政委員会の会議、地元の会議等にも出席して情報や現状の把握をしています。</li> </ul>
143 ・行政の方で人口データ、住民異動データを分析してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民異動のデータを活用し、定住に繋がる施策を研究します。</li> </ul>
144 ・部会で議論した事業等の成果を数値で示してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策・事業などの成果について解りやすくお示しできるように努めます。</li> </ul>
145 ・市外の人達が恵那の何を知り、何を求めているのかをマーケティングをし、先を見据えた事業展開が必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集などの方法を検討し、みなさんのご意見をお聞きしながら、恵那市にあった事業が展開できるように努めます。</li> </ul>